

制作発表資料
2002. Aug.

平成15年度前期 連続テレビ小説

こころ

「血がつながってなくてもあなたたちは私の子！」

2003年度前期の連続テレビ小説は

心意気から突然ママになってしまったヒロイン・**こころ**の波乱万丈の物語！！

とびっきりの人情の町、浅草で八代続く**老舗うなぎ屋**『きよ川』に生まれた
ヒロイン・^{すえなが}**末永こころ**は、国際線の客室乗務員（スチュワーデス）。

まぶたの父に姿重なる**山男**と、大恋愛。

しかし、この男性、バツイチで**ふたりの子持ち**。

さあ、ヒロインの波乱万丈の人生が始まります。

粋で人情に厚い浅草の住人たちに囲まれてヒロイン・**こころ**が名実ともに
「浅草の母」になるまでの**泣き笑い青春子育て日記**！

企画意図

親子、家族、地域など、人と人との絆が希薄となり「子育てのしかたもわからない」母親が増えている現代。

連続テレビ小説68作目の「こころ」は、浅草生まれのヒロイン・末永こころ（23歳）が国際線客室乗務員（スチュワーデス）の職を投げうち、血のつながらない子供2人に限りない愛情を注ぎ、育てていく『青春子育て日記』。

粋で人情味あふれる浅草の住人たちと、子育てに、家業のうなぎ屋の再建に、ヒロインは粉骨砕身。やがてこころは、神輿と花火の似合う“浅草の名物女将”としてたくましく成長していく。

末永こころ は八代続く老舗のうなぎ屋『きよ川』のひとり娘。

末永家は祖母、母親と女三代、女系家族。

父親は隅田川の花火大会で母と知り合い、結ばれたが、都会になじめず、故郷、新潟へ帰っていった。今は山里の村で手作りの花火工場を営む、腕のいい花火職人だ。

この父親の面影を^{ほうぶつ}髻とさせる男性と **こころ** は運命の出会いを。男性は浅草で診療所の開設を目指す医師であった。

しかしこの男性にはすでに2人の子供が。

現代の“赤ひげ”を目指す夫との、地域に根ざした暮らし。

家族4人のつかの間の幸せは、夫の突然の雪山遭難で崩れ去る。

残された血のつながらない子供たちとの、葛藤と対立。

次第に **こころ** は“本当の親子”として、子供たちと向き合うことになる。

ドラマは少子化社会において「子供を育てることの大切さ」を正面から見据え、現代の子育てのあり方を探ります。

一方で隅田川・浅草の下町情緒と四季折々の風物、父親の故郷である新潟の山里の風景、さらにダイナミックで美しい打ち上げ花火を、デジタルハイビジョンによるきめ細やかな映像で描きます。

「たとえ他人のことでも困っていれば助け、おせっかいでも間違っていれば正す」――

そんな“下町スピリット・ガール”こころの波乱万丈の物語に、ご期待ください！

ヒロイン発表！

ヒロイン「こころ」を演じるのは、1989人の応募者から選ばれた



中越典子

(なか ぎし のり こ・22歳)

佐賀県佐賀市出身で、芸能活動を始めて4年目。スリムな身体からは想像のつかない、元気印の女性。子供のころから絵が大好きで、高校は芸術コースを選択。デビュー後も、雑誌の連載や出演した番組の中で自作のイラストを披露し、趣味のシルバーアクセサリー作りはセミプロ級の腕前。明るい笑顔と九州女性らしい芯の強さが魅力的な、期待の大型新人である。

*profile

昭和54（1979）年12月31日佐賀県佐賀市生まれ。本名同じ。平成11年にモデルとしてデビュー。現在放送中のNHKのケーブルテレビキャンペーンスポットにも出演、その魅力的な笑顔で文字通りNHKの明るいイメージを創っている。今回、NHKドラマには初出演となる。
(所属 キューブ)

役柄

末永
こころ

東京・浅草生まれの23歳。短大を卒業後、国際線の客室乗務員として勤務している。こころという名前は、父親が「心意気」と「真心」の二つの意味を込めて名づけた。浅草と祭りが大好きで、祭りとなれば法被姿で先頭に立って神輿を担ぐ。

悩んだとき、困ったときには、考え込まずに「心がなんと言っているか」が頼り。自分の心の声を信じ、少しぐらい無理に思える時でも「心意気、心意気」と呟き、飛び込んでいく強さをもつ。

作者のことは

あおやぎ ゆみこ
青柳 祐美子



「君、書けそうだから書いてみれば」と言われて以来、私は思いっきり道を踏み外して脚本家になってしまった。深い考えも強い決心もなかったので、「夢が叶ったわ!」という喜びもなく、まだまだ遊びたかった20代に次から次へと仕事をするだけで、気がついたらあっという間に30歳になってしまうのではないかと、ただただ焦っていた。20代のオンナの子の殆どがそう恐れるように、私もオンナは30になったら終わりだと思っていたから。

「なあんでこんなことしてるんだ?」と書いている意味すら見失い煮詰まっていた私を見かねたある監督がこう言った。

「自分はいつも現場で擬似恋愛をするんだ。それはもちろん主演女優の場合もあるし、メイクさんや衣装さんだったりする時もある。ま、言ってみれば相手は誰でもいいんだ。でも、誰かいるかないかっていうのは大きく違う。どんなに朝早かったり寒かったり疲労がたまっていたりしても、ドキドキして現場に行くのが楽しいし、あの子のために頑張ろうとか、いいところ見せなくちゃってリキが入るんだよ」

誰かのために頑張る——到底ムリなことでも、明らかに自分が損をしてしまうような場合でも、「この人のためなら」と一肌脱いであげられること、言い換えれば、それは「心意気」ということなのかもしれない。

当時、私が頑張れなくなっていたのはそんな心意気がなかったからだ。年を取ると自分のためだけには頑張れなくなるという。「頑張って」と声をかける人がいて、「おう、頑張るよ」と答える人がいる。もう歩けなくて、みんなが自分を見捨てて行ってしまいう時にでも、おぶってでもひっぱってってくれる人は必ずいる。一人じゃないよ。みんな誰かに応援されている、見守られていることに気がついて——そしてどんなに自分が打ちのめされてしまっている時でも、それに応える心意気を思い出して欲しい。

そんな想いをこのドラマの主人公 **末永こころ** に託しました。

*profile

神奈川県出身。上智大学比較文化学部卒業。主なテレビドラマ「ひとり暮らし」「理想の結婚」「スウィートシーズン」、映画「友子の場合」「もう一度逢いたくて」など。NHKではハイビジョンドラマ「蒲生邸殺人事件」、水曜ドラマの花束「ただいま」、月曜ドラマシリーズ「生存・愛する娘のために」などを執筆している。

制作にあたって

チーフ・プロデューサー 大加章雅

むさぼるように自分の夢を追い求めるのが“青春の入り口”なら、自分の足元やしがらみの中に幸せの種を見つけていくのが“青春の出口”と言えるかもしれません。

今回の朝ドラでは、この“出口”を扱ってみたいと思ったのです。それもとびっきりの人情の町浅草を舞台にして、ヒロインに波乱万丈の宿命をあたえて…。

そして、今、これ以上はいないと思われるヒロインが決定しました。

中越典子、22歳。明るさ、伸びやかさ、きつぷのよさ、頼り甲斐、そして さわやかな「おとな」の風情も併せもつ逸材です。

脚本は、32歳、朝ドラ史上でも最年少クラスの青柳祐美子さん。現在の青春をみずみずしいせりふと、ユーマラスで独自の語り口で描く俊才です。

青春をいまなお現在形で生きるこのふたりの女性を軸にして、私たちは、ちょっと新しいタッチの朝ドラにチャレンジしていきます。

浅草下町の人情と心意気に生きるヒロインの姿をとおして、どんなことがおこっても、生きていくってやっぱりすばらしい、そんな風に感じられる元氣とヒントを毎朝お届けします。

物語の舞台 浅草 そして新潟

ヒロインの故郷は、東京都台東区浅草。かつて東京一の繁華街だったこの地域には、今でも浅草寺界限や隅田川沿いなどに、下町情緒が色濃く残っている。三社祭やおおづき市など四季折々の祭礼・行事を大切に、人々の温かい人情や心意気が生きているこの町で、ヒロインの実家は老舗のうなぎ屋を営む。

一方、雪深い新潟県中越地方の山里で、ヒロインの父は小さな花火の工場を営んでいる。新潟の花火師は、世界に類を見ない巨大な三尺玉や四尺玉を打ち上げることで有名。そしてヒロインの夫の故郷として、越後三山を背にした六日町の診療所が、ドラマに登場する。

台東区・浅草

今から1300年以上前に、隅田川で漁の網にかかった観音様を祭ったのが、浅草寺の起源といわれる。明治以降、仲見世や六区の興行街が庶民の盛り場として発展。映画や軽演劇、浅草オペラや落語で多くの観客を集め、エノケンやロッパなど幾多の映画スターや喜劇人を育てた。戦後は、戦災から復興。三社祭やおおづき市、酉の市など伝統的な行事を大切にする一方で、浅草サンバカーニバルなど新しいイベントも積極的に行い、常に観光客で賑わっている。

新潟県・中越地方

魚沼地方を中心に、日本の米どころとして知られる。六日町など内陸部は、全国でも有数の豪雪地帯。夏は、長岡市や小千谷市の三尺玉、四尺玉といった巨大な打ち上げ花火で知られ、地元の花火職人たちが腕をふるっている。また、小千谷市から山古志村にかけては、錦鯉の日本一の産地として知られ、山間に養殖池が一面に広がる風景が美しい。

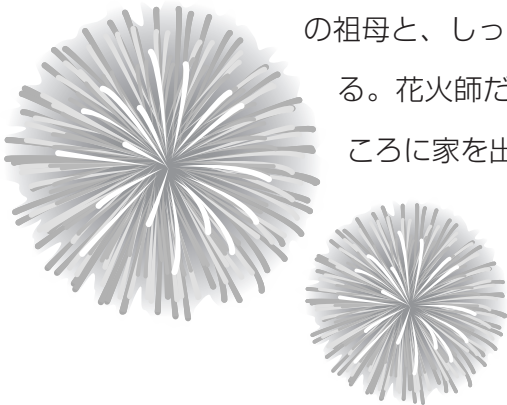


浅草生まれのちゃきちゃきの江戸っ子、末永こころは23歳。お祭りが大好きで、男勝りで気風がよく、ひとたび何かあれば、モットーの「心意気」で何処へでも飛び込んでいく。こんな元気印の彼女の、波乱万丈の物語が始まる…。

こころは国際線の客室乗務員（スチュワーデス）。地元・浅草と海外を往復する毎日である。こころは子供のころ、地元の飛不動とびふどうに航空安全のお参りに来ていた客室乗務員たちに出会った。彼女たちは、すごくきれいがかっこよかった。「私もいつか狭い浅草を飛び出して、もっと広い世界を見るんだ。」こころは幼心にそう誓い、見事に夢をかなえたのだった。



こころの実家は、江戸時代から続く、老舗のうなぎ屋『きよ川』。粋な女将の祖母と、しっかり者の母が切り盛りして、店はいつも繁盛している。花火師だった父は、一度店に入ったものの、こころが幼いころに家を出て行き、今は新潟の山里で細々と花火を作っているらしい。こころには、父の思い出はあまりない。ただ、父の打ち上げた花火の美しさだけは覚えていた。



女3代の女系家族で、ひとり娘として育ったこころ。こと結婚に関しては運のなかった祖母、母と違い、「私は三度目の正直。きっと幸せな結婚をして、理想の家族を作るんだ」そう夢見ていた。そんなこころが出会った運命の相手は、皮肉にも「バツイチで2人の子持ちの中年ドクター」だった。

5月、浅草の華は三社祭。フライトを終え、神輿みこしを担ぐべく駆けつけたこころは、見知らぬ長身の男と出会う。折しも神輿の担ぎ手に急病人が発生するが、

こころ と男の対処で事なきを得る。男は医師だった。浅草で“赤ひげ”のような診療所開設を目指すこの男と、**こころ** は次第に親しくなる。



生まれて初めて、強い恋心を抱く **こころ**。男も **こころ** のひたむきさに惹かれる。だが男はすでに医師の妻と離婚し、中学生の娘と5歳の息子を抱える生活をしていた。そのため男は、あえて理由も告げずに、**こころ** を避けようとする。**こころ** も一度はあきらめようと決心するが、どうしても忘れられない。真夏の隅田川、花火大会の夜。満開の花火の下で運命の再開を果たした二人は、お互いの愛を確かめ合い、結婚を誓う。

しかしバツイチで子持ちの男との結婚話に、浅草中が大騒ぎ。特に母親は、自らの結婚の失敗からも娘の幸せな結婚を望んでいたため、猛反対する。一方男の側でも、弟の母親代わりになっていた中学生の娘は、父親の結婚が面白くない。しかし、二人は愛を貫き、遂に結婚にこぎつける。

家族4人の賑やかな新婚生活が始まる。夫は、浅草に念願の診療所を開設。**こころ** も仕事に家庭に大忙しだ。だが、幸せはつかの間。雪山での遭難者を救助するため山に登った夫は、突然の雪崩に巻き込まれてしまう。血のつながらない子供たちと残された**こころ**。子供たちはなかなか素直になろうとしないが、**こころ** は時には悩み、喧嘩し、正面からぶつかっていく。



新潟の山里に住む父との再会と和解。祖母、母親、女三代の華やかな恋模様。浅草での「子育て」をめぐるてんやわんや。実家のうなぎ屋の経営危機。ひと癖もふた癖もある様々な浅草の人々に囲まれ、母、祖母の生き方を見つめ、**こころ** はうなぎ屋を再建。やがて子供たちの本当の母親に、そして名実ともに「浅草の母」へと成長していく。



放送予定

平成15年3月31日（月）～9月27日（土）＜全26週156回＞

（月）～（土） **総合** 午前 8：15 ～ 8：30

衛星② 午前 7：30 ～ 7：45

デジタルハイビジョン

午前 7：30 ～ 7：45

（再） **総合** 午後 0：45 ～ 1：00

衛星②（土）午前 9：30 ～ 11：00（一週間分）

制作スケジュール

平成14年11月中旬

都内ロケでクランクイン（予定）

平成14年12月上旬

スタジオ収録開始（予定）

スタッフ

制作統括	大加章雅
デスク	高橋練
演出	小松隆
	磯智明 ほか

新潟放送局長 村山慎一